CAPCOM

（証券コード　9697）

第29期中間報告書

平成19年4月 1 日から平成19年9月30日まで

会社の概要

（平成19年9月30日現在）

社名	株式会社カプコン（CAPCOM CO., LTD.）
設立	昭和54年5月30日
主要な事業内容	家庭用テレビゲームソフトおよび業務用ゲーム機器等の企画、開発、製造、販売ならびにアミューズメント施設の運営
資本金	314億79百万円
従業員数	1,304名（連結1,439名）
ホームページ	http://www.capcom.co.jp/

目次

株主の皆様へ

ゲームを通じて「遊文化」をクリエイトし、多くの人に感動を与える「感性開発企業」を目指します。

辻本憲三

辻本春弘

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

当社は、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できるよう、経営と執行の役割をより一層明確化するため、今年の7月1日をもってグループ全体の経営戦略の責任を担うCEOと業務執行の責任を担うCOOを両輪に新たな経営体制を構築いたしました。

今後は新体制のもと、経営における意思決定のスピード化と業務執行の円滑化を図り、関係会社と求心力を高めた事業展開により企業価値を高めるとともに、更なる飛躍と成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成19年11月

代表取締役会長 最高経営責任者（CEO） 辻本憲三

代表取締役社長 最高執行責任者（COO） 辻本春弘

事業の概況

当社グループ第29期上半期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の事業の概況と中間決算についてご報告申しあげます。

当中間連結会計期間のわが国経済は、個人消費の伸び悩みや株価の下落、円高の進行など先行き不透明感が出始めましたものの、底堅い設備投資や雇用情勢に支えられ、景気はおおむね順調に推移いたしました。

当業界におきましては、家庭用ゲーム市場で据置型の新型ゲーム機が出揃い、国内外において漸次普及してまいりましたが、旧型機との世代交代を迎え端境期に入っております。

一方、携帯型ゲーム機は一時の勢いは減速しつつも堅調に推移いたしました。

こうした状況のもと当社グループは、多様な顧客ニーズに対応するため有力タイトルや他社との提携ソフトを投入いたしました。

中でも「バイオハザード4 Wii edition」(Wii用)が海外を中心に予想を上回る売行きを示すとともに、「逆転裁判4」(ニンテンドーDS用)も堅調に販売を伸ばしたほか、前期大ヒットした「モンスターハンターポータブル 2nd」(プレイステーション・ポータブル用)も余勢を駆って続伸するなど、主力部門のコンシューマ用ゲームソフトが好調に展開し、業績向上のけん引役を果しました。

因みに、「モンスターハンターポータブル 2nd」(プレイステーション・ポータブル用)は、社団法人コンピュータエンターテインメント協会主催の「日本ゲーム大賞 2007」(平成18年4月1日から平成19年3月31日までの間に国内で発売された作品が対象)の年間作品部門において、最高の栄誉である「大賞」に輝きました。

加えて、前期発売の「ロスト プラネット エクストリーム コンディション」(Xbox360用)および「大神」(プレイステーション2用)も「優秀賞」を受賞するなど、ブランドタイトルの拡充に弾みがつくとともに、商品ラインアップがますます充実してまいりました。

また、パチスロ機向け液晶表示基板および携帯電話向けゲーム配信のコンテンツエキスパンション事業もゲームソフトとの相乗効果により着実に伸長し、利益を押し上げました。

さらに、事業領域の拡大を図るため、昨年設立したポータルサイト運営子会社である株式会社ダレットが本格的な事業展開を開始いたしました。

一方、少女漫画誌最大規模の全国イベントである「ちゃお＆ChuChuサマーフェスティバル2007」においてワンタメミュージックチャンネル「2007夏 さん×2パピー」などを出展したワンタメブースが大盛況となったほか、米国のコミックの祭典「Comic-Con International 2007」でも下期期待タイトルの「バイオハザード アンブレラ・クロニクルズ」が人気を集めるなど、国内外において積極的なイベントを行ってまいりました。

この結果、売上高は311億8百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

利益面につきましては、営業利益30億58百万円(前年同期比0.5%増)、経常利益は為替差損の発生などにより33億95百万円(前年同期比10.3%減)となりました。また、中間純利益につきましては、過年度役員退職慰労引当金繰入額を特別損失に計上しましたため16億3百万円(前年同期比16.4%減)となりましたものの、期初計画を上回ることができました。

なお、中間配当につきましては、1株当たり15円とさせていただきました。

今後の見通しといたしましては、当業界は新型ゲーム機のシェアを巡る主導権争いが、ますます激化するものと予想されます。

また、家庭用ゲームの市場規模を押し上げた携帯ゲームも、勢力図の色分けに影響を与えるものと思われます。

こうした環境のもと、当社グループは緻密なマーケティング戦略や顧客満足度の向上により需要の増大に努めてまいります。前期はXbox360向けの「デッドライジング」と「ロスト プラネット エクストリーム コンディション」が欧米を中心に販売を伸ばし、いずれもミリオンセラーを達成しましたが、引き続き海外ユーザーの嗜好に対応した訴求力のあるソフトの投入により、海外でのアドバンテージを築いてまいります。

さらに、欧米に加えオーストラリアでの市場開拓や韓国において今年の3月に設立した全額出資子会社のカプコン・エンタテイメント・コリアCO., LTD.を通じて、鋭意、オンラインゲームにも注力し、アジア圏での事業展開も拡充してまいります。

加えて、「プレイステーション3」、「Xbox360」および「パソコン」など異なるハードの開発プロセスを共有化できる、当社独自の開発ツール「MTフレームワーク」により開発費の抑制や迅速なソフト開発を進めてまいります。

他方、当社の人気ゲームを題材にしたハリウッド映画「バイオハザードⅢ」の劇場公開が今年9月の米国上映を皮切りに全世界で予定されるなど、コンテンツを活用した映画、音楽、出版などライセンスビジネスにも注力してまいります。

コンシューマ用ゲームソフト部門

「バイオハザード4 Wii edition」(Wii用)が欧米を中心に底力を発揮したことにより販売本数を伸ばし、計画を大きく上回るポジティブサプライズとなりました。

加えて、当社独自の法廷ゲーム「逆転裁判4」(ニンテンドーDS用)もシリーズ最高の50万本を超える売行きを示したほか、前期大ヒットを放った「モンスターハンターポータブル 2nd」(プレイステーション・ポータブル用)も続伸し、収益向上に寄与いたしました。

また、顧客層の拡大を図るため占いゲーム「ワンタメ うらないチャンネル」(ニンテンドーDS用)を発売し、女子ユーザーの深耕に向けて種蒔きを行いました。

この結果、売上高は163億23百万円(前年同期比3.7%増)、営業利益24億58百万円(前年同期比8.7%増)となり、業績向上のリード役を果しました。

「バイオハザード4 Wii edition」
(Wii用)

大人気のサバイバルホラー「バイオハザード」シリーズがWiiで登場!
様々なアクションが繰り出せるなどWiiならではの操作機能が絶賛され、特に欧米において人気を博し予想を上回るヒットを放ちました。

「逆転裁判4」
(ニンテンドーDS用)

シリーズ4作目となる本作品は、前作から7年後の世界を舞台に新たな主人公を迎えます。
趣向を凝らしたストーリーや巧妙なトリックが幅広い年齢層の注目を集め、着実にファン層を拡大しています。

アミューズメント施設運営部門

市況軟化のもと顧客ニーズに対応した多様な機種揃えや各種イベントの開催等により女性や親子連れなど幅広い客層の取り込み、需要喚起に努めてまいりましたが、競合店との競争激化に加え、子供向けカードゲームの人気低下や記録的な猛暑も手伝って既存店が減収となるなど振るわず、総じて軟調に展開いたしました。

なお、新規出店といたしましては「プラサカプコン入間店」(埼玉県)および「プラサカプコンちはら台店」(千葉県)をオープンいたしました。

これにより、中間期末の施設数は35店舗となっております。

この結果、売上高は63億75百万円(前年同期比1.4%減)、営業利益6億82百万円(前年同期比40.0%減)となりました。

「プラサカプコンちはら台店」

今年9月に千葉県市原市にオープン。
店内は、イラストレーター 小田切竜太郎氏のデザインによるオリジナルキャラクターたちのポップなイラストが散りばめられ、非日常的なアミューズメント空間を演出しています。

業務用機器販売部門

市場が停滞気味の状況下、業務用カードゲーム機「ワンタメ ミュージックチャンネル」のカード販売等のリピート商品主体の販売となりましたが、けん引商材の不在など僅少なラインアップに加え、「ドンキーコング バナナキングダム」の不具合なども重なって苦戦を余儀なくされ、低調裡に終始いたしました。

この結果、売上高は13億77百万円(前年同期比68.5%減)となり、営業損失5億70百万円(前年同期は8億93百万円の営業利益)の計上のやむなきに至りました。

「ワンタメ ミュージックチャンネル」
(カード一例)

お気に入りの犬(パピー)に服やアクセサリーなどのカードを組み合わせておしゃれやダンスを楽しむカードゲーム。
ニンテンドーDS用ソフト「ワンタメ うらないチャンネル」も発売されるなど、女子ユーザー獲得に向けて相乗展開を図っております。

コンテンツエキスパンション部門

パチスロ機向け液晶表示基板の「デビル メイ クライ 3」が順調に販売を伸ばしたほか、携帯電話向けゲーム配信事業も「逆転裁判」などが堅調に推移するなど、両部門が着実に事業を拡大し、収益向上に貢献いたしました。

この結果、売上高は56億44百万円(前年同期比323.2%増)、営業利益18億63百万円(前年同期比2484.0%増)となりました。

「デビル メイ クライ 3」
(パチスロ機)

魅力溢れるキャラクターで大人気の家庭用ゲーム「デビル メイ クライ」シリーズをパチスロ機向けに展開。
オリジナルの世界観はそのままに、主人公ダンテのスタイリッシュでクールなアクションが見事に再現され、プレーヤーを引き付けています。

その他の部門

その他の部門につきましては、主なものはキャラクター関連のライセンス事業で、売上高は14億11百万円(前年同期比9.3%増)、営業利益3億7百万円(前年同期は42百万円の営業損失)となりました。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期(平成19年9月30日現在)	前中間期(平成18年9月30日現在)	前期(平成19年3月31日現在)
【資産の部】			
流動資産	54,863	63,910	60,089
現金および預金	32,342	35,871	35,020
受取手形および売掛金	7,478	11,496	11,417
たな卸資産	3,764	3,012	3,488
ゲームソフト仕掛品	6,233	5,427	3,415
繰延税金資産	2,926	2,733	3,215
その他	2,505	6,674	5,075
貸倒引当金	△ 386	△ 1,305	△ 1,543
固定資産	31,862	32,257	31,389
有形固定資産	16,033	14,634	15,500
建物および構築物	6,018	6,208	6,091
アミューズメント施設機器	3,561	2,856	3,022
建設仮勘定	308	144	287
その他	6,144	5,424	6,099
無形固定資産	3,118	1,859	2,277
投資その他の資産	12,709	15,764	13,611
投資有価証券	1,526	2,117	1,794
繰延税金資産	4,784	8,135	5,786
その他	8,166	6,256	6,635
貸倒引当金	△ 1,767	△ 746	△ 605
資産合計	86,725	96,168	91,478

科目	当中間期(平成19年9月30日現在)	前中間期(平成18年9月30日現在)	前期(平成19年3月31日現在)
【負債の部】			
流動負債	15,546	27,246	19,747
支払手形および買掛金	5,657	8,142	7,489
短期借入金	2,155	700	755
1年以内償還予定の転換社債	—	10,000	—
賞与引当金	609	346	1,746
その他	7,123	8,057	9,755
固定負債	22,604	31,708	26,586
転換社債	15,000	15,000	15,000
新株予約権付社債	3,510	11,500	6,635
長期借入金	1,680	3,780	3,430
その他	2,414	1,428	1,521
負債合計	38,150	58,955	46,334
【純資産の部】			
株主資本	48,842	36,968	44,970
資本金	31,479	27,581	29,915
資本剰余金	19,198	15,336	17,637
利益剰余金	6,312	2,408	5,555
自己株式	△ 8,147	△ 8,358	△ 8,138
評価・換算差額等	△ 267	244	157
その他有価証券評価差額金	329	636	482
その他	△ 597	△ 391	△ 325
少数株主持分	—	—	16
純資産合計	48,574	37,213	45,144
負債純資産合計	86,725	96,168	91,478

POINT 資産の部

流動資産は、現在開発中のゲームソフト仕掛品の増加がありましたものの、アミューズメント施設の出店等に伴う現金および預金の減少などにより、前期末に比べ52億25百万円減少し、548億63百万円となりました。
固定資産は、無形固定資産の増加などにより、前期末に比べ4億72百万円増加し、318億62百万円となりました。
この結果、資産合計は前期末に比べ47億52百万円減少し、867億25百万円となりました。

POINT 負債の部

流動負債は、支払手形および買掛金の減少などにより、前期末に比べ42億1百万円減少し、155億46百万円となりました。
固定負債は、ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の権利行使が進んだことなどにより、前期末に比べ39億81百万円減少し、226億4百万円となりました。
この結果、負債合計は前期末に比べ81億83百万円減少し、381億50百万円となりました。

POINT 純資産の部

純資産合計は、ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の権利行使が進んだことに伴い、資本金および資本剰余金が増加し、前期末に比べ34億30百万円増加し、485億74百万円となりました。なお、自己資本比率は56.0%となっております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	前中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	前期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
売上高	31,108	29,175	74,542
売上原価	19,970	18,882	48,160
売上総利益	11,138	10,293	26,382
販売費および一般管理費	8,079	7,251	16,779
営業利益	3,058	3,042	9,602
営業外収益	838	865	1,405
受取利息および配当金	665	374	900
その他	172	490	505
営業外費用	501	121	407
支払利息	36	35	72
その他	464	85	335
経常利益	3,395	3,785	10,600
特別利益	235	104	104
特別損失	381	528	718
税金等調整前中間(当期)純利益	3,249	3,361	9,986
法人税、住民税および事業税	280	361	1,085
法人税等調整額	1,382	1,081	3,058
少数株主損失	16	—	9
中間(当期)純利益	1,603	1,918	5,852

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	前中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	前期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	203	3,330	16,063
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,276	△ 3,895	△ 6,715
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,205	△ 4,141	△15,206
現金および現金同等物に係る換算差額	△ 399	△ 97	203
現金および現金同等物の減少額	△ 2,677	△ 4,803	△ 5,654
現金および現金同等物の期首残高	35,020	40,652	40,652
新規連結に伴う現金および現金同等物の増加額	—	22	22
現金および現金同等物の中間期末(期末)残高	32,342	35,871	35,020

POINT 売上高

売上高は「バイオハザード4 Wii edition」(Wii用)が欧米で大ヒットを放つなど、コンシューマ用ゲームソフト部門等が好伸したことにより、311億8百万円(前年同期比6.6%増)と増収となりました。

POINT 営業利益

売上高は増収となりましたものの、営業利益は販売費および一般管理費の増加などにより30億58百万円(前年同期比0.5%増)と横ばいとなりました。

POINT 中間純利益

中間純利益は、過年度役員退職慰労引当金繰入額を特別損失に計上しましたため16億3百万円(前年同期比16.4%減)となりましたものの、期初計画を上回ることができました。

中間連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)　(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	29,915	17,637	5,555	△ 8,138	44,970	482	1	△ 326	157	16	45,144
中間連結会計期間中の変動額											
新株の発行	1,563	1,561			3,125						3,125
剰余金の配当			△ 846		△ 846						△ 846
中間純利益			1,603		1,603						1,603
自己株式の取得				△ 9	△ 9						△ 9
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 152	△ 0	△ 272	△ 424	△ 16	△ 441
中間連結会計期間中の変動額合計	1,563	1,561	756	△ 9	3,872	△ 152	△ 0	△ 272	△ 424	△ 16	3,430
平成19年9月30日残高	31,479	19,198	6,312	△ 8,147	48,842	329	1	△ 598	△ 267	—	48,574

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科目 ＼ 期別	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)
【資産の部】			
流動資産	38,830	47,777	42,950
現金および預金	18,160	23,727	16,971
売掛金	5,980	7,492	9,975
たな卸資産	3,464	2,316	3,201
ゲームソフト仕掛品	5,888	5,437	3,527
繰延税金資産	2,726	1,993	2,562
短期貸付金	464	2,253	2,068
その他	2,339	5,709	5,926
貸倒引当金	△ 193	△ 1,154	△ 1,282
固定資産	43,619	44,640	43,689
有形固定資産	5,445	3,979	4,889
無形固定資産	1,424	287	470
投資その他の資産	36,749	40,373	38,329
資産合計	82,449	92,417	86,639

科目 ＼ 期別	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)
【負債の部】			
流動負債	10,327	22,977	15,627
支払手形	1,000	3,486	2,721
買掛金	3,236	2,773	3,130
1年以内償還予定の転換社債	—	10,000	—
未払法人税等	143	123	173
賞与引当金	498	296	1,431
返品調整引当金	354	132	462
その他	5,094	6,163	7,709
固定負債	20,254	27,801	23,008
転換社債	15,000	15,000	15,000
新株予約権付社債	3,510	11,500	6,635
退職給付引当金	988	880	933
その他	756	420	440
負債合計	30,582	50,778	38,636
【純資産の部】			
株主資本	51,838	41,304	47,822
資本金	31,479	27,581	29,915
資本剰余金	19,198	15,336	17,637
利益剰余金	9,308	6,744	8,407
自己株式	△ 8,147	△ 8,358	△ 8,138
評価・換算差額等	28	335	181
その他有価証券評価差額金	28	335	181
純資産合計	51,867	41,639	48,003
負債純資産合計	82,449	92,417	86,639

中間損益計算書

(単位:百万円)

科目 ＼ 期別	当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	前期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
売上高	25,276	21,438	55,584
売上原価	17,109	15,655	38,941
売上総利益	8,166	5,783	16,643
返品調整引当金繰入額	—	—	113
返品調整引当金戻入額	108	216	—
差引売上総利益	8,275	5,999	16,529
販売費および一般管理費	5,366	4,463	10,175
営業利益	2,909	1,535	6,353
営業外収益	442	306	564
営業外費用	420	68	784
経常利益	2,931	1,773	6,134
特別利益	585	104	104
特別損失	378	545	663
税引前中間(当期)純利益	3,139	1,332	5,575
法人税、住民税および事業税	33	73	159
法人税等調整額	1,358	613	2,319
中間(当期)純利益	1,747	646	3,096

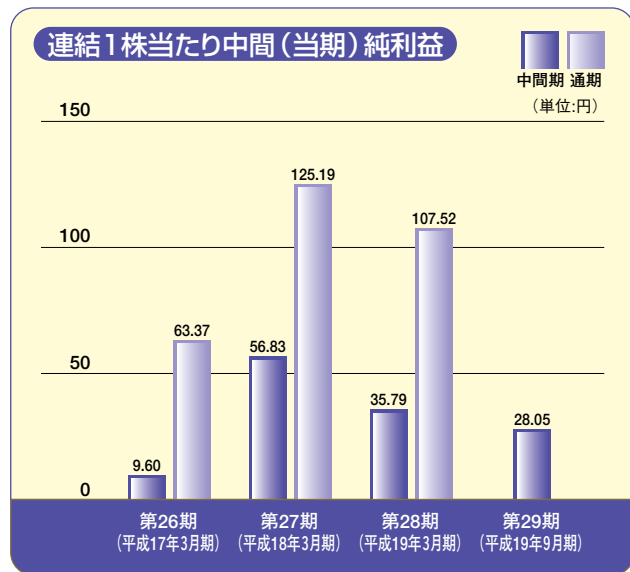
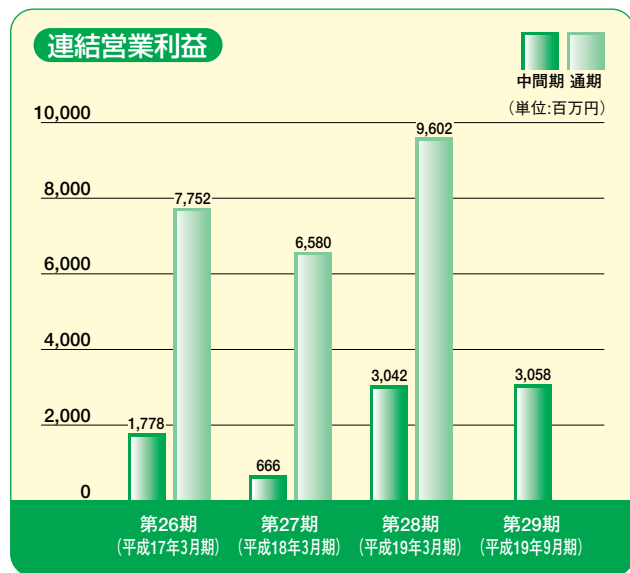
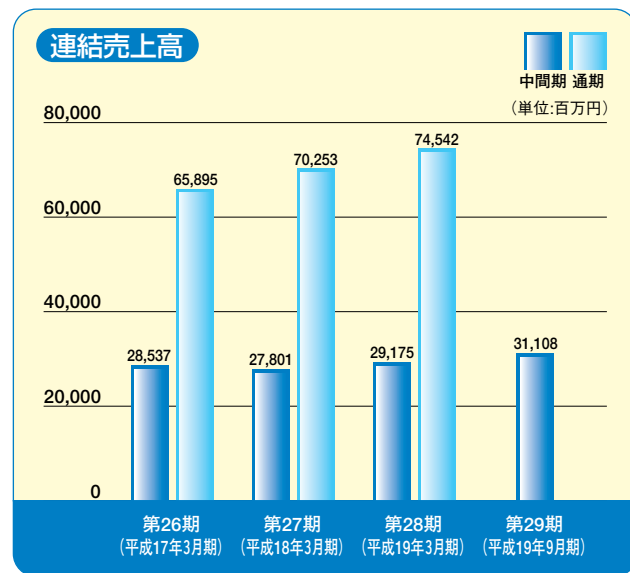
中間株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)　(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	純資産合計
平成19年3月31日残高	29,915	17,637	8,407	△ 8,138	47,822	181	48,003
中間会計期間中の変動額							
新株の発行	1,563	1,561			3,125		3,125
剰余金の配当			△ 846		△ 846		△ 846
中間純利益			1,747		1,747		1,747
自己株式の取得				△ 9	△ 9		△ 9
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△ 152	△ 152
中間会計期間中の変動額合計	1,563	1,561	900	△ 9	4,016	△ 152	3,863
平成19年9月30日残高	31,479	19,198	9,308	△ 8,147	51,838	28	51,867

財務ハイライト

Financial Highlights

株式の状況 (平成19年9月30日現在)

- 発行可能株式総数　150,000,000株
- 発行済株式の総数　64,836,791株
- 株主数　15,459名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
有限会社クロスロード	6,771	11.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,227	8.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,215	5.45
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,838	4.81
辻本憲三	2,416	4.09
辻本美之	1,669	2.83
辻本春弘	1,546	2.62
辻本良三	1,545	2.62
モルガンスタンレーアンドカンパニーインターナショナルピーエルシー	1,192	2.02
ドイチェバンクアーゲーロンドンピービーアイリッシュレジデンツ619	1,184	2.01

(注)出資比率については、自己株式数(5,817千株)を控除して算出しております。

役員の状況 (平成19年9月30日現在)

- 取締役および監査役

役職	氏名
代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	辻本憲三
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	辻本春弘
取締役	初野純孝
取締役	飛澤宏
取締役 最高財務責任者(CFO)	阿部和彦
取締役	小田民雄
取締役	堀紘一
取締役	保田博
取締役	松尾眞
監査役(常勤)	山口省二
監査役(常勤)	平尾一氏
監査役	黒田守雄
監査役	中山好雄

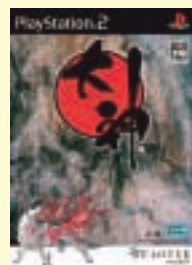
(注)1. 取締役　堀　紘一、保田　博および松尾　眞の各氏は、社外取締役であります。
2. 監査役　山口省二、黒田守雄および中山好雄の各氏は、社外監査役であります。

日本ゲーム大賞 2007 発表!!

今年の9月に発表された「日本ゲーム大賞 2007」（社団法人コンピュータエンターテインメント協会主催）において、「モンスターハンターポータブル 2nd」が年間作品部門で大賞を受賞いたしました。
同タイトルは、国内で発売されたプレイステーション・ポータブル用ソフトとしては初めて出荷本数が100万本を超えるミリオンタイトルとなるなど、新たに当社の看板タイトルに加わりました。
また、「大神」および「ロスト プラネット　エクストリーム コンディション」が優秀賞を獲得したほか、海外市場で最も高い評価を得た作品に贈られるグローバル賞も「デッドライジング」が受賞いたしました。
さらに、今後発売予定の作品から選出されるフューチャー部門においても3タイトルが選ばれるなど、合わせて7タイトルが受賞し、当社のゲームに対する高い評価と大きな期待が寄せられました。

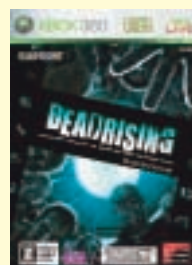
大　賞
「モンスターハンターポータブル 2nd」
（プレイステーション・ポータブル用）

平成19年2月22日発売

優 秀 賞
「大　神」
（プレイステーション2用）

平成18年4月20日発売

優 秀 賞
「ロスト プラネット
エクストリーム コンディション」
（Xbox360用）

平成18年12月21日発売

グローバル賞(日本作品部門)
「デッドライジング」
（Xbox360用）

平成18年9月28日発売

フューチャー賞
「デビル メイ クライ 4」
（プレイステーション3・Xbox360用）

平成20年1月31日発売予定

フューチャー賞
「戦国BASARA2
英雄外伝（HEROS）」
（プレイステーション2・Wii用）

平成19年11月29日発売

フューチャー賞
「宝島Z
バルバロスの秘宝」
（Wii用）

平成19年10月25日発売

●カプコンIRサイトのご案内　http://ir.capcom.co.jp/

当社では、株主や投資家の皆様に最新情報をタイムリーに提供することを目的として、ホームページを活用したIR活動にも注力しております。
IRサイトは10月にリニューアルを行い、高齢者や障害をお持ちの方々にも配慮し、音声読み上げソフトへの対応や「文字サイズ変更ボタン」を設置するなど、更なるユーザビリティの強化を図っておりますので、ぜひご活用ください。

当社IRサイトは、情報の充実度や使いやすさにおいて各評価機関より高い評価をいただいております。

IR資料室

マーケットデータや人気ソフトの販売本数をグラフや画像等でわかりやすく掲載するとともに、決算説明会の模様をパソコン上で閲覧できるだけでなく、動画をポッドキャストにも対応させるなど、豊富な情報を取り揃えております。

個人投資家の皆様へ

当社をより深くご理解いただけるよう「当社の強み」や「市場動向」などをわかりやすくご説明しております。

カプコンIRメール

メールアドレスをご登録いただきますと、プレスリリースや決算資料などの最新情報をメールにてお知らせいたします。

『アニュアルレポート 2007』発行

本年度は、経営トップ自らが、中長期の経営課題に対する戦略および具体的施策をQ&A方式にて明快に解説しております。
また、特集にて、強みである最先端のゲーム開発環境や、海外営業組織体制の刷新など安定成長に向けた様々な取り組みを詳解するなど、投資家の皆様により理解を深めていただくため内容の充実を図っております。
ご希望の方は当社広報・IR室までお問い合わせいただくか、当社IRサイトの資料請求フォームをご利用ください。

株式会社カプコン　広報・IR室　電話 06-6920-3623

携帯からもIR情報へアクセス

http://m-ir.jp/c/9697

当社の業績概況や株式情報が携帯電話から閲覧できるほか、株価の終値や最新のリリース情報も取得できます。QRコード（二次元コード）の読み取りに対応した携帯電話をお持ちの方は右の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。

※読み取り方法についてはお手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。

株主メモ

定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会　3月31日 剰余金の配当 　期末配当　3月31日 　中間配当　9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 （お問合わせ先）	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）0120－094－777

○株主名簿管理人の事務取扱場所が、移転に伴い平成19年5月7日より変更になりました。

同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　全国本支店 野村證券株式会社　全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

	電話（通話料無料） 0120－244－479（本店証券代行部） 0120－684－479（大阪証券代行部） ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告方法	電子公告 当社のホームページ（http://www.capcom.co.jp/）に掲載します。 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場金融商品取引所	東京・大阪証券取引所

株式会社カプコン

環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。